

#### 4 お雇い外国人（1）横須賀造船所・レオンス・ヴェルニー

1858年にアメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと相次いで修好通商条約を締結した江戸幕府は、「お雇い外国人」と呼ばれた欧米の技術者や専門家の助けを得て、近代化を進めていきました。その一人であるフランソワ・レオンス・ヴェルニー（1837-1908）は、エコール・ポリテクニク（理工科大学校）を卒業後、海軍造船工学校で造船工学や造船技術を学び、海軍の技術者となりました。欧米列強の巨大な鋼鉄船を目の当たりにして海軍力の増強の必要性を認識した幕府は、レオン・ロッシュ第二代駐日フランス全権公使の勧めにより、フランスから技術者を招いて造船所を建設することにしました。そこで指導者として白羽の矢が立ったのが、中国の寧波で造船所やドックの建設を指揮していたヴェルニーでした。



François Léonce VERNY  
(フランス国立図書館)

ヴェルニーの指導により、1865年から横須賀製鉄所（後に横須賀造船所に名称変更）の建設が始まりました。横須賀は、東京湾の入口にあり、水深が深く造船所の建設に向いているとの理由から建設地に選ばれました。当時は小さな田舎の村に過ぎなかった横須賀には、フランスから招かれた造船や製鉄の技術者、職人、医師などが暮らすことになりました。造船に必要な施設、ドックや軍艦の建設が進められ、横須賀造船所は日本で最初の近代的な総合工場となりました。日本で最初の灯台も、ここで作られました。熱した鉄をたたいて形を整えるスチームハンマーはその後100年以上も現役で使用されました。日本の重要文化財に指定され、現在は横須賀にあるヴェルニー記念館に展示されています。人材育成にも力を入れたヴェルニーは造船所内に学校を設け、ここでフランス語や造船技術を学んだ若者が幅広い分野で活躍しました。横須賀は、国防の重要な拠点として発展し、現在は在日米軍と海上自衛隊の基地があります。

ヴェルニーは、日本に来る前にブレストにある海軍工廠に勤務していました。このことがきっかけで横須賀市とブレスト市は姉妹都市となり、2020年に姉妹都市提携50周年を迎えました。

掲載日：2021年4月20日